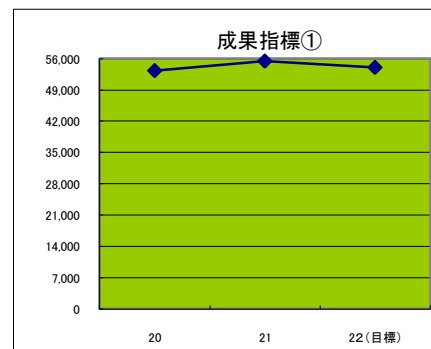
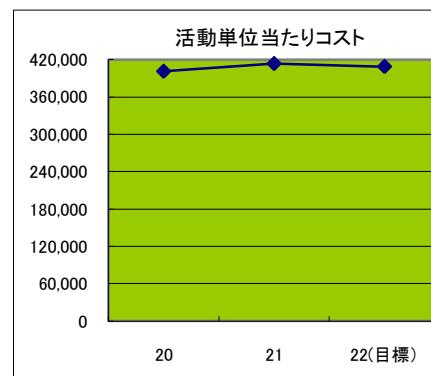


事務事業名		陵南の森公民館管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	3	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	(1)	生涯学習の機会と内容の充実		目	5	公民館運営費
関連する計画等				事業	1	陵南の森公民館運営	作成部署 教育委員会事務局生涯学習室社会教育課 (陵南の森公民館)
対象(誰を・何を)				連絡先	072 - 958 - 1111	内線 5500	
羽曳野市民をはじめ、市内在勤、在学者。(子供企画は小学生対象)							
意図(どういう状態にしたいのか)							
教養向上、健康増進、生活文化の振興し社会教育の増進を図る。							
事業の内容 公民館は、年末年始(12/30~1/4)を除く1年359日間の運営、開館時間は9:00~21:00。事業内容①公民館講座の開設及び各種団体、サークルの育成支援。講座は教養部門(成人講座歴史講座・婦人学級の女性セミナー)入門講座(外国語セミナー等)を開講している。②地域住民やサークル等の活動の場の提供③文化活動等の情報提供では公民館運営審議会・グループ連絡協議会等に行っている。④成果発表の場として実行委員会(老人福祉センタークラブ連絡協議会含む)を結成し 陵南の森ふれあいフェスタを実施している。							
根拠法令等		社会教育法、羽曳野市立公民館条例					
事業開始時期		☒ 昭和 58 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている				終了年度	平成 年度
事業開始時からの状況変化		平成17年度から講座運営費について、受益者負担としている。					
市民や議会の要望		講座開催種目や回数の増加の要望あり。					
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☒ 市外郭団体委託 名称 (社団法人羽曳野市シルバー人材センター) ☐ 民間委託 ☐ その他				委託内容	
						夜間・土・日・祝日の受付業務等	

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		4,853	4,371	4,192
人件費【2】 (千円)		19,200	19,593	19,500
職員数	正規職員	2.00 人	2.00 人	2.00 人
	再任用職員	2.00 人	1.33 人	1.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	1.00 人
	臨時職員	0.00 人	1.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	373.60 時間	249.18 時間	230.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		24,053	23,964	23,692
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)	2,223	2,097	2,485
	一般財源 (千円)	21,830	21,867	21,207
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 講座数	講座	60	58	58
② サークル数	団体	100	101	101
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		400,883 円	413,172 円	408,483 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		201 円	202 円	199 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	①	(式)	人	クラブ・サークル活動者・講座受講者数	目標	54,000	54,000	達成率(%)	54,000	
					実績	53,290	55,395	102.6%		
	②	(式)	人	講座を申し込んだ人数	目標	2,187	2,077	達成率(%)	1,264	
					実績	2,197	1,901	91.5%		

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進のためには必要である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民の文化・教育などの教養向上と生活文化の振興を図る場として公民館運営事業は重要である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	公開講座では講座内容毎による受益者負担の割合を見て受講料を定め、徴収している。講座実施にあたっては各種団体等の協力を得て低報酬や無報酬の講師に依頼している。なおかつ報酬のある講師には21・22年度に渡り段階的に報酬を引き下げた。人員削減においては今後も再任用職員を活用することができる。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
人員を削減する余地がない		☒	☐	☐		
事業費を削減する余地がない		☒	☐	☐		
簡略化できる方法や手段がない		☒	☐	☐		
市の他事業と重複していない		☒	☐	☐		
民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない		☐	☒	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	公民館利用者数、講座受講者数は増加傾向にあり、教養の向上、生活文化の向上に貢献している。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたつてサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	講座立案に当たっては市民生涯学習講座運営委員・受講生の意見要望を基にしている。講座実施においては低報酬やボランティアでの無報酬の講師を依頼している。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	全体的な利用者数は向上している。全体的に講座も好評であるが、一部講座で人気薄のものがみられた。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	公民館を利用するクラブ・サークルは自主的に旺盛な活動をしており発表の場である陵南ふれあいフェスタに参加することにより、さらに向上している。講座では受講生の満足を得られるように意見要望を基にしている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 受講者数の比較的小なかった講座受講生にアンケートの協力依頼をし受講者ニーズを把握し、次期講座に活かしている。また接点のなかった機関とも協働し、市民のボランティア力を加えて講座をさらに質の高いものにする。	
行 事 本 部 評 価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	